

岩高短歌

くワタシタチノウタく

月間優秀賞作品 R 6 ⑦

発行者
岩出山高校
国語科

〔十一月〕 紫色・冬のもの・岩高祭・マラソン大会

月間賞

寒くなる心と体温めて染み渡る空にスーぷを一口

第二席

帰り道「寒いね」と言う言葉から気霜が浮かび「そうだね」と言う

第三席

ステージでマイクを握りただ叫ぶこのステージは私の物だ

寂しさは寒さと共に訪れる心を溶かす二つの手袋

長い道晴天照りつく太陽で走り続けるとこまでも

優良賞

冬の朝赤いほつぺと白い息顔をうづめるマフラーとキミ

少年は雪が見たいと言うけれどまだ初時雨まだ少し先

君と見た紫色も白色にまだまだ続く切なき時間

雪が降る貴方の頬は真っ赤つか寒いねと言う君を見ている

冬の朝雪に高ぶる子供みて昔の自分と重ねあわせる

学校が終わり帰宅し部屋入る眼鏡がくもりもう冬なんだ

風を切り足音響く長き道ゴールの先に夢を追いて

人生で最後の楽しい岩高祭過ぎて行く日々大切な仲間